

[課題演習概要]

「読み」を通して自己の変容を捉える国語科学習指導

松 本 悠

Yu MATSUMOTO

福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻教育実践力開発コース

キーワード：中学校国語科，読み，対話，変容

1 研究の目的

OECD (2018) では自らの人生を形作り，他者の人生に貢献していくためのコンピテンシーの獲得が求められている。そこで本研究は，中学校国語科の「読み」の学習で，他者との協働的な読みが，学習者の自己の変容を促し，自覚することにどのような効果があるかを検討する。そして，その読みの一連のプロセスを「読みのモデル」として整理し，指導との関係を明らかにすることを目的とする。

2 研究の計画

M1	学習者の主体的な読みを批判的読みの観点で調査。
M2	前期では，学習者の読みと自己の変容のプロセスを「読みのモデル」として提案。後期では，授業実践の結果を分析し，「読みのモデル」を再検討した。

3 研究の内容

(1) テキストの解釈について

難波 (2008) は読みにおいて，テキスト／文章の顕在的な構造を生み出す認知行為を「コード解釈」，潜在的な構造を生み出す認知行為を「推論解釈」としている。

この2つの解釈の視点を取り入れ，そこから自分の考えを形成できる学習を考える。そして，その学習者の考えを他者と交流し，変化した自分の考えを記述できるようにする。

(2) 授業実践概要・学習プリント概要

実践日時	2021年12月1日～12月8日 (全5時間)
単元名	君は「最後の晩餐」を知っているか
学習者	福岡県公立中学校第2学年21名
内容	筆者の主張を読み，それに対して自分の考えを述べる。その後，考えの対話を行う。

第1時には，学習プリント1を使用した。そ

の①の問いを以下「1-①」のように表記する。

また学習過程としては，1-③と4-①の間に，筆者の主張と根拠などテキスト内の関係性を捉えるコード解釈を行い，推論解釈として，テキスト内の印象的な言葉について，学習者内のイメージを膨らませる学習を行った。さらに5-①の前に再度筆者の主張を読み直す時間を設定した。

表1 学習プリントで記述する内容

1-①	初読の感想	1-②	他者の1-①を見て思ったこと
1-③	1-②を通して思ったこと，考えたこと		
4-①	修復後の絵（筆者の主張側）と完成後の絵のどちらを自分が見たいか，その理由		
5-①	筆者の主張する「本当の「最後の晩餐」」の考えに賛成か反対か，その理由		
5-②	他者の5-①を見て思ったこと，伝えたいこと		
5-③	5-②を通して，考えが変化したこと，付け加えること，交流しての感想		

(3) 実践結果の分析と指導の考察

a) コード解釈による変容

表2 生徒Aの記述

1-①	修復が終了したのが1999年5月で案外最近で驚いたし修復したあとに本当の最後の晩餐を作ったなら，修復した人も作者でいいじゃないかと思った。
4-①	(修復後) 修復を終えたのしかないから。
5-①	(筆者に賛成) レオナルドが作ったものに細部があるけど，絵の全体を見る人が少ないから修復後がいい。

生徒Aの記述を見ると，4-①から5-①で考えの立場は変わらないが，5-①では筆者の主張を踏まえて考えの理由を述べている。

これは，目的をもってテキストを読む指導を行ったことが要因であると考えられる。5-①を考える前に，筆者の考えを捉えるという目的を示してコード解釈をしたことで，4-①から考えが転換するかどうかに関わらず，考えの理由が強化される変容が起こったと考える。

b) 多様な考えを保障する指導の効果

表3 生徒Bの記述

1-①	この壁画はどのように描いたのか。磔刑。
4-①	(修復後) 理由，完成したばかりのはほこりがかぶったり，絵の具がはげたりしているから，あかるくて，一人一人が見やすいから。
5-①	(筆者に反対) レオナルドが描いた細かい部分がきえているから。
5-②	(賛成の生徒への意見) しかしぼくは，レオナルド・

	ダ・ヴィンチがかいた細かいところがないので、ちがうと思います。
5-③	レオナルドがかいた細かい部分がないならないほうがいい。

4-①の記述を見ると、生徒 B は筆者の考えを捉えられていない。しかし、5-①の前で筆者の考えを読み取った後も、筆者の考えには反対し、さらに5-②では、自分の立場で他者に意見を述べており、他者の考えを模倣する様子もない。つまり、自分の考えを形成でき、多様な考えが持てる授業だったといえる。クラス全体でも、5-①では賛成が9人、反対が11人であり、生徒の考えが固定化されていないことがわかる。

これは、教師がテキストの解釈をあえて文章でまとめて示さなかった結果であると考えられる。5-①前でも、筆者の考えの要素を箇条書きで板書するに留めたことで、学習者は筆者の主張が唯一の考えとは捉えず、それを自分の考えの理由強化に用いることができたと考えられる。

c) 他者との対話による変容と自覚への効果

表4 生徒Cの記述

5-①	(筆者に反対) たしかに、修復後の絵のほうが様々な表現に目がいくかもしれないけど、レオナルドが描いた当時の「最後の晩餐」のほうが、絵の細部までこだわった部分を見ることができるとレオナルドがそのままに描いた「最後の晩餐」だと思うからです。
5-②	(生徒Aに対して) たしかにそのとおりだなと思いました。細部ばかりに注目してしまって絵全体を見る人は少ないと思います。(以下略)
5-③	交流をして、「反対」という意見に変わりはないが、「付け加えること」として、理由に修復によって今の技術を加えられていて、本当のものといえないと思うから付け加えたいです。交流をすることで、賛成の人の意見を聞くことができて、自分の中に新しい意見が増えてよかったなと思いました。

表5 生徒Dの記述

5-①	(筆者に反対) (略) 修復後の方が良かったとしても、それは今の技術を加えたり、今の時代の人がいいと思う絵に修復されたりしているかもしれないから。
-----	---

生徒Cの5-③の記述を見ると、同じ立場の生徒Dの考えを取り入れて、考えの理由が変容している。また、反対の意見を聞くことで、自分の中に新しい意見が増えたという変容も自覚していることがわかる。そこで5-②を見ると、確かに反対の考えの生徒Aに共感する記述があった。

これは、「他者の考えに対して思ったこと」を交流させ、交流後に再度自分の考えを整理させる指導を行ったことが要因であると考えられる。特に交流の形を、班で結論を絞るものにしなかったことで、交流後に考えを整理した際に、元々の自分の考えと、他者に影響を受けて変容した考えが整理でき、その変容を自覚できたのではないかと考える。

(4) 「読みのモデル」の再構成

実践の結果をもとに、「読みのモデル」を再構

成した。(図1)

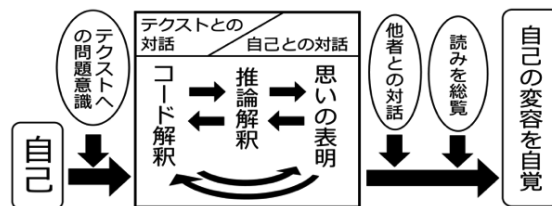


図1 「読みのモデル」(再構成版)

【テキストへの問題意識】…テキストへの疑問や着眼点を引き出す。

【コード解釈】…テキスト内の構造(筆者の主張と根拠の関係など)を読み取る。

【推論解釈】…テキスト内の概念に対して、自分の経験を引き出して、解釈を拡張する。

【思いの表明】…テキストへの解釈をもとに、自分の思いや考えを表明する。

この内、コード解釈、推論解釈はテキストとの対話が求められ、推論解釈、思いの表明は自己との対話が求められる。

【他者との対話】…「推論解釈」、「思いの表明」の内容(考えや考えの理由)を共有する。

【自己の変容を自覚】…各読みの段階で影響を受けたもの、考えの変化などを言語化する。

各読みの段階で変容が起こり、それを記録して総覧することで、変容が自覚されると考えた。

4 成果と課題

○学習者の変容を生み、それを自覚させるための「読み」の学習として、特に解釈を固定させない指導と、多様な考えを認める対話の指導の効果を検証し、「読みのモデル」を実践的に再構成することができた。

●実践の中で、コード解釈が教師主体になっていたため、学習者が自らコード解釈を行うような手立てを見つけていく必要がある。

●現状の「読みのモデル」は学習者の読みを対象としたものに留まっているため、教師の指導との関わりを組み込んでいく必要がある。

主な引用・参考文献

難波博孝 2008 母語教育という思想—国語科解体/再構築に向けて— 世界思想社  
 OECD 2018 OECD Future of Education and Skills2030 [https://www.oecd.org/education/2030-project/about/documents/OECD-Education-2030-Position-Paper\\_Japanese.pdf](https://www.oecd.org/education/2030-project/about/documents/OECD-Education-2030-Position-Paper_Japanese.pdf) (2021年12月19日閲覧)